

ひかりのこ

7月園便り
聖ミカエル幼稚園
2013年6月25日発行

月主題：夏を感じて

いよいよ夏本番。夏休み前、子ども達は園庭で、保育室でお友だちと元気いっぱい遊びます。また、夏休みや連休を利用して、ご家庭でも、家族一緒に外で過ごす、楽しい時間が多くなるのも夏です。

私の家庭は夫も私も中学校教員でしたので、子どもたちが小さい頃は、夏休みに年休をまとめて取って、あちこちに連れて行きました。国語の教員として、小説や古典の地を訪ねる、研修も兼ねていました。ワゴン車に1週間分の着替えを詰め込んで、ふとんや枕も詰め込んで、ずっと遠くを目指します。宿はほとんど取らず、だいたい道の駅の駐車場がその日の宿です。

一番遠くの旅は九州旅行でした。長男が中2の時、夏休みの宿題の読書感想文で菊池寛の『恩讐の彼方に』について書くことになり、夫が、「じゃあ、その地まで行こう!」ということになったのです。『恩讐の彼方に』は、かつて侍として人をたくさん殺した、その罪滅ぼしに、人々のために洞門を掘る了海と、昔彼に父を殺されて仇討ちに来た実之助の話です。開通まで仇討ちを待ち、一緒に掘るうち仇を討つことも忘れ、開通の時には二人は手を取り合って喜び、というあらすじです。その洞門は大分県の耶馬溪にあります。その地を目指し、京都まではフェリーで、その先はずっと夫が運転しました。疲れたら休む、ちょっと温泉に寄って行こう、そんな気ままな旅です。子どもたちも眠たくなったら寝て、3人で歌を歌ったりなぞなぞをしたりビデオを見たりしながら朗らかに過ごします。そうして、やっと耶馬溪に着き、洞門が掘られるまで、人々が命をかけて通行していた崖の道を実際見たり、人の手で掘られた洞門のざらざらの石肌を手で確かめたりして、その土地の空気を吸い、肌で作品を実体験していくのです。

そうこうして、あちこちを回って、自動車の小さな空間の中で1週間家族だけで過ごすと、「ああ、家族こそがわが家だなあ。家がなくなってしまっても家族さえいれば幸せだなあ。」とつくづく感じたものです。今は子どもたちも大きくなってしまって、車で1週間も過ごすのは無理がありますし、なかなか親には付き合ってくれなくなりました。お金も時間もかかったけど、子どもが小さいとき、思い切って遠くに出かけて良かったなあ、と思います。今でも私たち家族にとって大切な思い出です。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

むかしむかし、ある国に知恵のある王様がいました。ある夜、この王様は大通りの真中に大きな岩をおいておきました。

翌朝、これを見た人々は、「どんな悪い奴がこういうことをしてくれたんだろう。本当にひどいやつだ。」と文句を言いながら、その岩を避けて行きました。1人では片付けられないほどの大きな岩だったからです。人々が文句を言いながらあの岩を避けて通るのになれてきたある日、1人の子どもがあの大きな岩を転がしてみようと押して見ました。勿論、ピクともしません。これを見た人々は皆笑いました。「君のようなちびには無理だよ。」しかし、この子は毎日、大通りに出てきては、あの大きな岩を動かそうと力を振り絞って頑張ります。そのような日々が何年もたったある日、押しても引いてもびくともしなかったあの大きな岩がほんのちょっとだけびくとしてきた気がします。嬉しくなったこの子は、さらに力を出してあの大きな岩を押ししました。びくびく、ほんのすこしずつ、動き出したあの大岩がゆらゆら、ぶらぶら、ぐさぐさ。ついに、あの大きな岩は道端の向こうまで転がって行きました。そして、あの大きな岩があったその下には、王様が入れておいた手紙や多くの宝がありました。その手紙には、「この宝は皆のためにこの岩を片付けてくれたあなたのための贈り物です。これをもって私に会いに来てください。」何年間もあの大きな岩を片付けるため頑張る内に筋肉ムキムキの立派な大人になったこの子は、後にこの国の新しい王様になりました。妨げ、苦難等は文句を言うだけでは解決しません。直視し向き合い解決しようと頑張る人には、精神的な筋肉がつきます。そして、必ずいいことがあります。

「試練を耐え忍ぶ人は幸いです。その人は適格者と認められ、神を愛する人々に約束された命の冠をいただくからです。」

(聖書から)

チャブレン 司祭 ジョシュア 李 香男